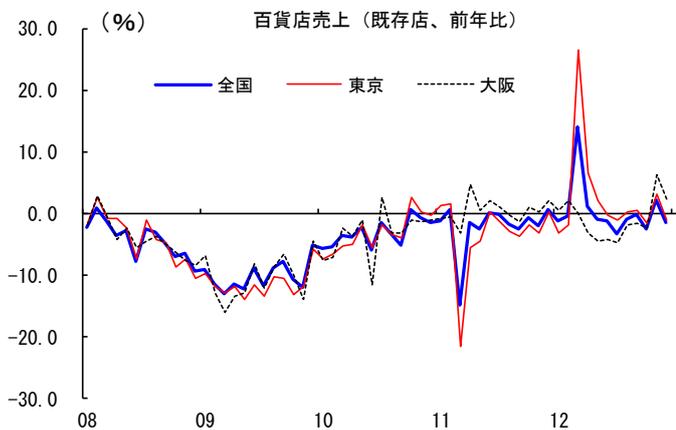


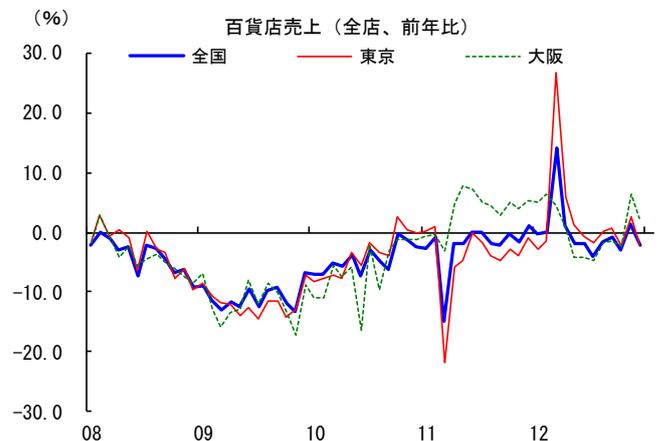
指標名:百貨店売上高(2012年12月)

発表日:2013年1月17日(木)

～衣料品・食料品の販売減を背景に減少～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 星野 卓也  
TEL : 03-5221-4526

(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」

## ○12月の百貨店売上高は前年比▲1.3%

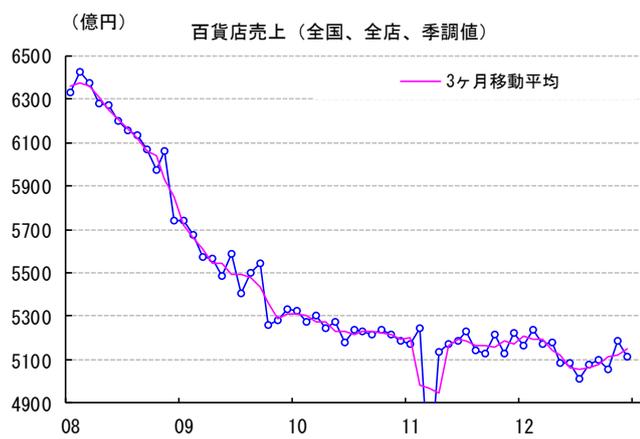
12月の百貨店売上高(全国)は、前年比▲1.3%(既存店ベース)と前年を下回った。当社試算の季節調整値(全店ベース)でも、前月比▲1.4%と減少している。

品目別にみると、主力の衣料品(既存店ベース前年比:▲1.8%)や食料品(同:▲2.1%)の販売減が売上全体を押し下げている。百貨店協会によれば、マフラーなどの小物、ブーツなどの防寒用品は好調であったものの、コート等の重衣料の売れ行きが不振であったとのことだ。11月の衣料品販売については気温低下を背景に好調に推移したが、12月はこの前倒し需要の反動が出た。食料品については、国政選挙の影響から歳暮商戦が振るわなかったことが影響したとのことだ。一方で、化粧品(同:+1.7%)、美術・宝飾・貴金属(同:+0.7%)などの身の回り品は前年実績をクリアしている。

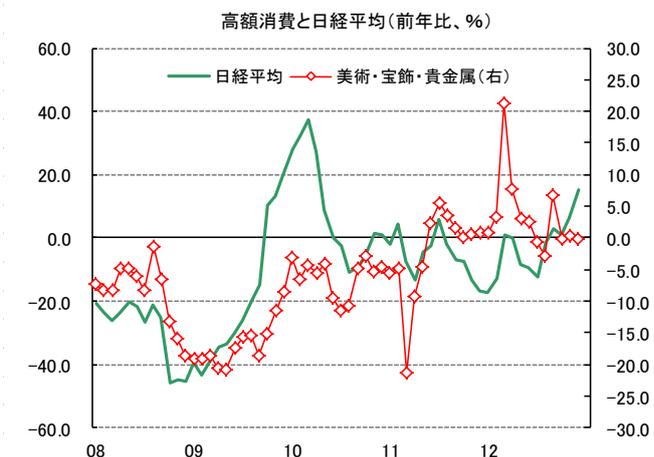
このように、12月の百貨店売上高は減少したが、11月が前月比+2.6%(当社試算の季節調整値)と強めの結果だった反動の影響もある。基調としては、横ばい圏での推移とみてよいだろう。

## ○先行きの個人消費には回復期待

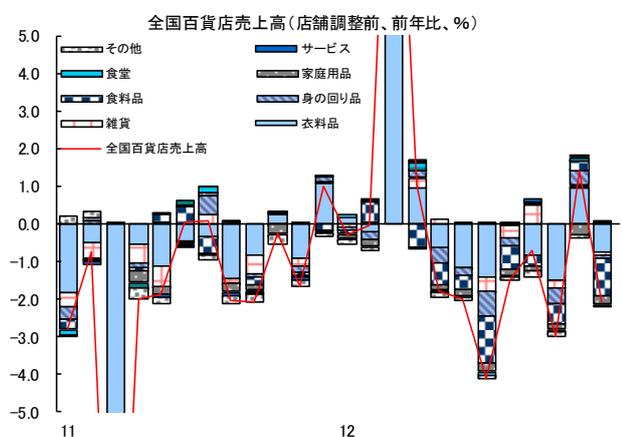
このところの個人消費には、マインドの悪化や所得環境の低迷、エコカー補助金の終了といった悪材料が散見されていた。しかし、先行きの個人消費については、プラス材料も出てきている。その一つが株高だ。株価は高額消費との相関がみられ、個人消費への好影響が期待される。加えて、自動車販売に持ち直しの動きがみられることも、今後の消費にとってプラス要因だ。所得環境の伸び悩みは続くと思われるが、株高や自動車販売の底打ちを背景に、個人消費は緩やかながら上向く可能性が高まっているといえよう。



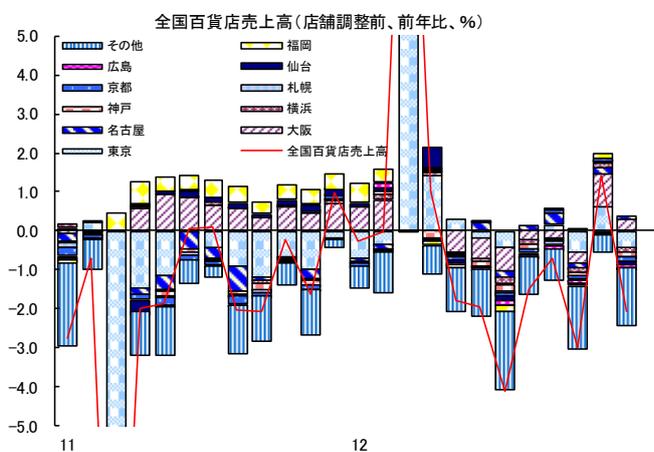
(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」  
 (注) 季節調整は第一生命経済研究所



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」、日本経済新聞社「日本経済新聞」  
 ※美術・宝飾・貴金属は店舗調整前。



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」